

令和 6 年 6 月 13 日現在

機関番号：12102

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(B)）

研究期間：2019～2023

課題番号：19KK0010

研究課題名（和文）冷戦期東アジアにおける創作教育、文学、大衆文化

研究課題名（英文）Creative Writing Education, Literature and Popular Culture in Cold War East Asia

研究代表者

吉原 ゆかり (Yukari, Yoshihara)

筑波大学・人文社会系・教授

研究者番号：70249621

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 14,200,000円

研究成果の概要（和文）：コロナ禍で予定通りにリサーチや発表ができなかった部分もあるが、以下の項目で、堅実かつ先鋭的な成果を得た。1. 東アジアにおけるアフリカ系アメリカ文学・文化・芸術の翻訳、紹介、受容の歴史およびアフリカ系アメリカ人作家や詩人と第二次世界大戦後の米国の創作学科の関係 2. 冷戦期創作教育と、翻訳・出版・市場インフラ構築との相互関係 3. 米高等教育機関における論文指導と文芸創作指導の構築プロセスと日本への影響 4. 米創作教育とアイオワ大学を訪れた日本人作家との関係 5. 米創作教育教授美学の基盤としてのモダニズム 6. 空想科学小説と文化冷戦 7. グローバル冷戦と英語文学、創作教育、大衆文化。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究により、本研究メンバーは、人的ネットワーク、国際研究協力体制、継続可能な研究方法の確立により、文化冷戦における創作教育、大衆文化、出版文化研究の、中核としての地位を獲得した。従来、冷戦文化外交において、文学や文学創作教育、大衆文化が果たした意義に関する研究が行われる場合でも、欧米中心であり、東アジアについての研究は、限定的であった。高等教育機関で教授されるべき学術学問と、ポピュラー・カルチャーとの線引きや創作教育と、広義のソフト・コンテンツ・ビジネスとの諸関係についての研究も萌芽的段階に留まっていた。本研究により、それらの限界点を打破する知のインフラを構築することができた。

研究成果の概要（英文）：Even though there were certain limitations to archival researches because of COV-19, this research project has achieved remarkably evidence-based ground-breaking outcome. Namely: 1. history and politics of publication, dissemination and circulation of the works by African American artists in East Asia, and the relationship between African American writers/ poets and American Creative Writing programs after WWII. 2. Mutual construction of Cold War Creative Writing education and infrastructure of translation, publication and the market. 3. Academic writing education and Creative Writing program in America and their introduction to Japan. 4. Creative Writing program in Iowa and Japanese creative writers who visited Iowa. 5. Modernism as the basis of Creative Writing pedagogy. 6. Cultural Cold War and Science Fiction. 6. Global Cold War and Anglophone Literature, Creative Writing and popular culture.

研究分野：文学

キーワード：創作教育 冷戦 英語文学 大衆文化 文化冷戦 東アジア 人種 出版文化

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究立案の時期に、冷戦期アメリカの文化的プレゼンスを高めるために行われた冷戦文化外交において、文学や文学創作教育、大衆文化が果たした意義に関する研究が、急速に発展しつつあった。しかしながら、それらは主にアメリカとヨーロッパの関係を巡るものであった。

環大西洋に加え環太平洋における文化外交を、アメリカという「帝国」の「グローバル文化冷戦」として捉える研究が21世紀初頭から隆盛を見せていたが、それらの研究において東アジアにおける文化冷戦、および東アジア諸国間の相互関係についての研究は、未だ限定的であった。

冷戦期は、高等教育をより広い階層・人種・ジェンダーに対して「民主主義的に」開く努力が行われた時代である一方、文化大衆化の時代でもあり、高等教育機関で教授されるべき学術学問と、ポピュラー・カルチャーとの線引きには多くの問題が含まれていた。創作教育と、広義のソフト・コンテンツ・ビジネスとの諸関係については、十分な研究が行われているとは言えなかった。

2. 研究の目的

冷戦期アメリカ主導で東アジアに展開した文化外交において、文学（英語で書かれた文学、英語に翻訳された東アジア文学を含む）・創作教育・大衆文化は、どのような社会的・歴史的役割を果たしたのかを問う。文学の生産・流通の拠点としてのアイオワ大学が、冷戦期の文学の場において果たした役割を、まさしくその実践を行う創作科およびそれらの研究を行う英文科の研究者が協力体制を築き、東アジアにおける同様の研究を行う本計画のメンバーとアーカイブ調査、理論と美学の連関についての研究を進める。具体的には以下の通り。1. 希少資料調査を本研究代表者・分担者・海外共同研究者で組織的に行い、関心を共有する研究者・将来の世代が活用可能なデータベースとして整理する（著作権・個人情報には十分留意する）2. 研究活動を通じて、さらなる国際的研究連携に展開していく人的ネットワークを若手研究者が関与するかたちで形成する。3. 完成年度以降に予定する英語論文集発行にむけての討議・準備作業を行う。

3. 研究の方法

本研究立案時においては、冷戦期における英語による文学（文学創作教育、文学の大衆化との関係を含む）は、グローバル文化冷戦の一翼を担っていたという認識に立ち、文学の生成変化に関する希少一時資料が貯蔵されている現地（とくに本研究の主たる海外共同研究先であるアイオワ大学）に赴き、調査、関係者との意見交換を行うという方法を主とする予定であったが、コロナのために、現地一次資料調査には、大きな制限が生じたと言わざるを得ない。電子化されたアーカイブ資料の取り寄せなど、リモートで行える調査を集中的に行なった。2023年3月、有光、越智、西田、ラーソン、吉原でアイオワ大学でのアーカイブ調査を行い、連携研究者との情報交換や議論、将来の研究協力に関する協議を行なった。アイオワ大学創作科創始者の Paul Engle の、大学公務に關係する書簡などの一次資料調査をアイオワ大学図書館で行なったほか、Engle の出身大学である近隣の Coe College で Engle と Hueling Nieh 關係の資料を調査した。

4. 研究成果（まず個別に記載し、全体に関わる部分は、吉原の項目で述べる）

有光 コロナ禍で予定通りにリサーチや発表ができなかった部分もあるが、冷戦期東アジア

アにおけるアフリカ系アメリカ文学・文化・芸術の翻訳、紹介、受容の歴史およびアフリカ系アメリカ人作家や詩人と第二次世界大戦後の米国の創作学科の複雑な関係の解明という作業において一定の成果を上げることができた。特にコロナ禍が終息に向かい始めた2023年3月のアイオワ大学でのアーカイブ調査と連携研究者との情報交換や議論、さらには神戸市外国語大学黒人文庫での文献調査によって、今後研究を進展させるうえで重要な手がかりを掴むことができた。前者のリサーチはこれまで批評・研究でほとんど顧みられてこなかったアフリカ系アメリカ詩人 Gwendolyn Brooks とアイオワ・ライターズ・ワークショップのリーダーである Paul Engel との間に数十年にわたる友情があることがわかり、Brooks がのちにシカゴでワークショップを立ち上げた経緯について興味深い発見があった。後者においても「黒人文庫」誕生の経緯についてこれまで気づくことのなかった資料を入手することができた。これらの手がかりをもとに今後さらに資料調査や理論構築を行い、論文へと仕上げていくつもりである。

越智 冷戦期と創作教育の関与について、とりわけ翻訳や流通という点に着目しながら考察した。コロナの時期に Iowa の大学院生の助けを借りて、不十分ながらのリサーチをした結果、創作プログラム出身の作家の作品がいかに流通するかということが大きな問題であろうと気が付いた。そのような観点から、冷戦期の雑誌における翻訳、あるいは UNESCO などの翻訳シリーズ等に注目して、リサーチを進めた。また Iowa の創作プログラムに関わり、またそのプログラムとも親和性が高かった *Kenyon Review* の二代目編集長であり、のちに *Playboy* 誌の文学編集者となった Robie Macauley が、創作プログラム、批評雑誌、ならびにその流通に関与した人物として、今後の課題として浮かび上がったこともこの間の成果である。

千葉 主に I. A. Richards と Kenneth Burke を中心に文学理論と文学創作の諸関係を調査から始め、合衆国における高等教育機関における論文指導と文芸創作指導がどのような歴史的・社会的な影響を経て構築され、それらがどのようなかたちで冷戦期前後において日本の教育機関に影響を与えてきたかを精査した。アイオワ大学、シカゴ大学における一般教養の発展は、文学創作や英文科における文章指導のあり方を方向づけるとともに、雑誌 *College English* や *The Journal of General Education* の創刊に結実し、合衆国における大戦後の高等教育機関のカリキュラムの根幹となってきた。また戦後の UNESCO との協力を背景に合衆国は、占領下日本の教育機関の再編成に際して、政策・立案に関わる指示だけでなく人的な交流を通して、日本における言語教育に対する土台を固めようとしていた。本研究が明らかにしたことは、合衆国による一方的な日本教育システムの作り替えではなく、作り替えのプロセスの中で大戦前に地方にあった綴方教育が再生されつつ、綴方が新教育に対立しながら日本の創作環境をかたち作っていったことである。

西田 アイオワ・ライターズ・ワークショップ(IWP)に参加した日本人作家たちに着目し、IWP がそれぞれの文学者たちの創作活動に与えた影響を明らかにすることを目指して調査を進め、多くの一次資料を発見することができた。倉橋由美子、中上健次、木島始、白石かずこをはじめとする、1960～1980年代にかけてアイオワ大学を訪れた作家たちの関連資料を収集整理することを通して、アメリカの創作教育と日本の文壇との関係やその変遷を解明する端緒をつかんだ。とりわけ大きな成果となるのは、2023年3月のアイオワ大学での調査により発見した木島始と倉橋由美子の資料である。倉橋由美子とその後 Paul Engel の妻となり IWP を牽引した Hualing Nieh Engle の関係を示

唆する新資料は、IWP と東アジアの作家や、IWP における女性作家といった観点からも重要な発見となる。木島始は、アイオワ大学から Paul Engel の協力を得て「戦後詩」の英訳詩集の出版をするのだが、その出版を巡ってなされた様々な人物との多種多様な遣り取りを窺うことができる資料が大量に発掘された。これらの資料からは、IWP における人的交流やネットワークといったものを探ることができ、「戦後詩」とアメリカの創作教育の関係を明らかにするという、これまでにない観点から論文へと結実することが見込まれる。

吉田 COVID19 による制限により海外での調査は進展しなかったが、翻訳と創作の関係性についての成果を上げることができた。アメリカのクリエイティブ・ライティングの教授美学の基盤となるモダニズムを言語横断的に検討する国際シンポジウムを開催した。文学研究のみならず日本語と英語による文学創作の発表の場をも設けることで、創作と研究、言語間の対話を前景化することができた。アメリカのクリエイティブ・ライティングの教授美学の基盤となるモダニズムを言語横断的に検討する国際シンポジウムを開催した。文学研究のみならず日本語と英語による文学創作の発表の場をも設けることで、創作と研究、言語間の対話を前景化することができた。

Larson Despite the COVID-19 pandemic, with the aid of this grant, I was able to achieve progress in several areas of my research. Of course, my interest in the history of creative writing programs in America was furthered by our visit to Iowa in March 2023, and my participation in the symposium, where I delivered a short paper on the work of Iowa University graduate Thom Jones. In addition, the chance to travel to Dresden and present my work at the Science Fiction Research Association Conference in August 2023 was a great opportunity to advance my converging interests in Cold War history, creative writing, literary history, and East Asian literature.

吉原 アメリカ西海岸における創作教育の中心地であるスタンフォード大学の Wallace Stegner 関係資料の整理を行った。Stegner と Engle は、両者ともにアイオワ大学創作科出身であり、北米大学での創作教育制度化のみならず、アメリカ式創作教育の東アジアへの移入移出においても協力関係にあったことを、一次資料調査を通じて明らかにした。

冷戦期創作教育の北米における制度化とそれとの大衆文化の関係は、より長いタイム・スパンでの知識人の思想変化と歴史的状況、北米とイギリスとのトランスパシフィックな文化交渉・アメリカと東アジアとのトランスアトランティックな文化交渉、共産主義圏での創作教育や大衆文化との関係において把握されるべきことが明らかになった。その視点にたち、コミックスや漫画、ミュージカルなどの大衆的文化を、ソフトコンテンツ生産・流通の側面を含めて調査した。

オックスフォード大学留学中(1934-37)の Engle 関係の資料から、吉田は、当時の彼には左翼的傾向が強かったこと(1930年代に左傾し、冷戦時代に反転して反共色を強めるのは、冷戦戦士知識人に広く見られるパターンである)を確認しているが、この時期の Engle のチューターは戦争詩人 Edmund Blunden だった。Blunden はオックスフォード大学講師就任以前東京帝国大学で英文学教育にあたっており、冷戦期に再来日、旧イギリス領を中心にイギリスを代表して文化外交に携わった。吉原は、アイオワ大学に所収されている Blunden と Engle の書簡は、アメリカ中西部・イギリス・東アジアを結んだ文学・創作教育を通じた文化外交の展開につき、新たな資料を提供するものであることを確認した。加えて、吉田と吉原との協働により、英語圏での創作教育のイデオロギー性の特質を明ら

かにするには、共産主義圏における創作教育に関する情報が必須であることが確認され、基礎的な調査を開始した。

アメリカの創作教育が、大学で制度化されるため出版業界を含めた政財界の意向を反映する傾向が強いのに対し、イギリスの創作教育は、コミュニティ密着型で草の根的であり、主流社会に対して抵抗的な傾向が強い。越智が、アメリカ内部においても、高等教育創作教育と、労働者階級・移民の識字運動とも深く結びついていたコミュニティ密着型の作文・綴り方教室とのあいだには性質の違いがあることにつき、千葉が戦前から日本の地方で続く綴り方教室と、敗戦後アメリカが導入した新教育との対立につき調査を進めた。吉原は冷戦期日本地方図書館における綴り方教室などにつき調査を進め、三者の協働のなかで、創作教育・綴り方が有した政治的意義を考察するためには、国家間の比較のみでなく、階級・人種・ジェンダーなどの要因を考慮することが必須であることが明らかになった。

アイオワ大学創作プログラムに関係した東アジア作家(Sionil Jose、Richard Kim、Pai Hsien-yung など)の調査を担当した吉原は、西田との協働を通じて、日本人作家と、東アジアを初めとする世界各国からアイオワに集まった作家たちの、相互変容過程を裏付けるための一次資料調査に着手した。アイオワ・ライターズ・ワークショップ(IWP)誕生を顧みれば、日本占領下の中国出身で、国民党とともに台湾に移住、国立台湾大学で創作教育の教鞭を執っていた Hueling Nieh が、創作作家リクルートのために東アジアを巡っていた Engle と台北で出会ったことに機縁を持つ。台湾時代の Nieh は雷震に代表されるリベラル知識人ネットワークに属していた。蒋介石政権との対立から弾圧されることになった雷震と、渡米後の Nieh が連絡を取り続けていたことが、アイオワ大学・Coe 大学の資料から判明した。西田が発見した、倉橋由美子と Nieh の交流を示す資料は、マジック・リアリズム的な手法をとる両者の技法の面も含めて、これから考察されるべき問題のひとつである。

アイオワを含めて、北米の創作教育が、教師と学生を含めて男性白人異性愛者中心になりがちであり、そこに有色人種や女性、非異性愛者が存在した場合でも、その存在と意義が十分な形では学術的に検証されてこなかった。有光の研究はこの点の打破を目指すものであるが、有光は吉原と、アフリカ系アメリカ人作家と東南アジア作家との相互交渉について連携をとりつつ調査を行なった。1955 年第一回アジアアフリカ会議(於 インドネシア、バンドン)での、アフリカ系アメリカ人作家 Richard Wright とインドネシアの文壇を牽引したりベラル反共知識人作家 Mochtar Lubis との、CIA 団体 Congress for Cultural Freedom を介した交流がことに重要であることが明らかになった。Congress for Cultural Freedom が世界各地で発行していた総合誌(イギリスの *Encounter*、日本の「自由」、インドネシアの *Horison* など)は、外国文学翻訳出版の場となっていたが、掲載された作品に、共産主義が世界を支配したのちのディストピアを描く科学小説的な性質を持つものが少なくない。Larson と吉原は、空想科学小説・SF が文化冷戦の武器であった点につき、プリント・カルチャーの展開も含めて協働で考察を深めた。

このように本研究は、COVID-19 のために当初予定していた規模での海外現地での調査を行うことができなかったことは無念であるが、限定された条件付けのなかで、最大値の成果をあげ、本研究で確固たるものとなった東アジア・北米を含めた研究者たちとのネットワークにより、英語文学、創作教育、大衆文化とグローバル冷戦の複雑な諸関係につき、将来における研究発展の堅固な基礎を築くことができたと自負している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 14件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 吉田恭子	4. 巻 2
2. 論文標題 拡張する翻訳 多和田葉子のドイツ語小説の翻訳をめぐって	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 早稲田大学国際文学館ジャーナル	6. 最初と最後の頁 75-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Kyoko Yoshida	4. 巻 12
2. 論文標題 The First Kyoto Writers' Residency	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 91st Meridian: The International Writing Program	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 吉田恭子	4. 巻 892
2. 論文標題 はじまりの京都文学レジデンシー	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 図書	6. 最初と最後の頁 22-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田恭子	4. 巻 8
2. 論文標題 英語翻訳からふりかえる現代詩	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ユリイカ	6. 最初と最後の頁 294-301
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 有光道生	4. 巻 80
2. 論文標題 「世界文学」としてのアフリカ系アメリカ文学：大陸中心主義と群島のアフリカ系アメリカ文学研究試論	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『アメリカ文学：日本アメリカ文学会東京支部会報』	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshihara Yukari	4. 巻 2
2. 論文標題 Shakespeare in Japanese Pop Culture	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 INContext: Studies in Translation and Interculturalism	6. 最初と最後の頁 107-125
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.54754/incontext.v2i1.14	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Yukari Yoshihara	4. 巻 73
2. 論文標題 Postwar American Studies in Asia and Its Pre-History: George Kerr and Taiwan as an American Frontier	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 American Quarterly	6. 最初と最後の頁 349-354
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Michael Larson	4. 巻 32.3
2. 論文標題 Accumulating and Realizing the Radical Potential of Catastrophe in Karen Tei Yamashita's Through the Arc of the Rain Forest, .	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Utopian Studies	6. 最初と最後の頁 494-512
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田恭子	4. 巻 771
2. 論文標題 ネイバーフッドの螺旋歳時記 『ニューヨークで考え中』のノスタルジー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ユリイカ	6. 最初と最後の頁 217-224
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田恭子	4. 巻 5月号
2. 論文標題 鼎談「英語圏で「作家になる」こと」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 群像	6. 最初と最後の頁 362-376
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Larson, Michael	4. 巻 99
2. 論文標題 The Vulgar and the Sublime	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Kyoto Journal	6. 最初と最後の頁 215
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 有光道生	4. 巻 -
2. 論文標題 今度は火だ：多様化する『黒さ』とBLMM時代のアフリカ系アメリカ文学	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 218-228
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiromi Ochi	4. 巻 -
2. 論文標題 Translations of American Cultural Politics into the Context of Post-War Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Keio American Studies	6. 最初と最後の頁 154-163
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田恭子	4. 巻 31
2. 論文標題 橋の上の語り 『ブック・オブ・ソルト』の人物造形と言葉遣い	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 立命館大学国際言語文化研究所, 立命館言語文化研究	6. 最初と最後の頁 147~159
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yukari Yoshihara	4. 巻 50
2. 論文標題 Shakespeare in Manga and Anime	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Tamkang Review	6. 最初と最後の頁 95-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計47件 (うち招待講演 5件 / うち国際学会 31件)

1. 発表者名 吉原ゆかり
2. 発表標題 1945年を跨境する文学・文化の地政学 N.V.M.ゴンザーレスの環太平洋・インターアジア旅程
3. 学会等名 『東アジア冷戦文化の系譜学』刊行記念プレシンポジウム (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 吉原ゆかり
2. 発表標題 冷戦、炭鉱、米文学
3. 学会等名 国際フォーラム 冷戦・アメリカ研究・九州
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Yukari Yoshihara
2. 発表標題 The Politics of translating Western writings in CCF-affiliated magazines in Japan
3. 学会等名 Space of Translation Final Conference, Translation in European Periodical Cultures, 1945-65 (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Yohei Chiba
2. 発表標題 Creative Writing of the Masses: Composition in the U.S. and Sakubun in Japan after the Second World War.
3. 学会等名 The Chukyo University English Society and the Nagoya University American Literature/Culture Society
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Hiromi Ochi
2. 発表標題 Representing Japanese Alliance in a Magazine; Encounter and Japanese literature through Translation
3. 学会等名 Space of Translation Final Conference, Translation in European Periodical Cultures, 1945-65 (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Hiromi Ochi
2. 発表標題 The Uses of Faulkner: a modernist and a Southerner
3. 学会等名 Uses of Modernism (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Michael Larson
2. 発表標題 Utopia, Totality, and Deconstruction in Postwar American Science Fiction
3. 学会等名 Japan Association of American Studies (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Michael Larson
2. 発表標題 The Dystopian Future of Work in Kobo Abe's Inter Ice Age 4
3. 学会等名 Science Fiction Research Association Conference (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Michael Larson
2. 発表標題 Postwar Japan's Shifting Subjectivities in Kobo Abe's Inter Ice Age 4
3. 学会等名 Politics, SF, and Cold War Culture in Japan Symposium (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 吉田恭子
2. 発表標題 モダニズムの水平線 世界文学シンポジウム 主催・創作発表「Dogs and Miracles」
3. 学会等名 立命館大学
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 吉田恭子
2. 発表標題 翻訳から生まれる新しい文学
3. 学会等名 近畿大学（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 吉田恭子
2. 発表標題 「目標言語は英語；翻訳文学を並べて読む」 特別シンポジウム「翻訳から生まれる文学研究：英語文学を越えて」
3. 学会等名 日本英文学会全国大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Michio Arimitsu
2. 発表標題 “ ‘Who knows but that, on the lower frequencies, I speak for you?’ ラルフ・エリソンの訪日と冷戦期の日本におけるアフリカ系アメリカ文学のオルタナティブな古典の誕生
3. 学会等名 Print Culture and Cultural Diplomacy（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 吉田 恭子
2. 発表標題 「タイムマシンのつくりかた」
3. 学会等名 『国際シンポジウム：アカデミアにおける文芸翻訳：研究と翻訳の接点』（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Michael Larson
2. 発表標題 “ Thom Jones and the Writing of Late Empire ”
3. 学会等名 Creative Writing and the Cold War (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Hiromi Ochi
2. 発表標題 “ ‘ Parchman as past, present, and future all at once? ’ : Race Violence as an Interminable System in Sing, Unburied, Sing. ”
3. 学会等名 Faulkner and ward Conference (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Michio Arimitsu
2. 発表標題 “ International Committee Talkshop. WorlIding of Blackness: A Global Dialogue. ”
3. 学会等名 American Studies Association (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yukari Yoshihara
2. 発表標題 “Wallace Stegner Goes to Asia: Creative Writing and Its Asian Mission.”
3. 学会等名 Modern Language Association (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yukari Yoshihara
2. 発表標題 “Creative Writing and Its Asian Mission”
3. 学会等名 Creative Writing and the Cold War (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Michio Arimitsu
2. 発表標題 Translating Blackness: Quadrangulated Imaginings of Race and Ethnicity in the Pacific-Rim
3. 学会等名 The 55th International Conference organized by the American Studies Association of Korea (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 有光 道生
2. 発表標題 『世界文学』としてのアフリカ系アメリカ文学大陸中心主義、群島アメリカ研究、アフリカ系アメリカ文学の大海
3. 学会等名 日本アメリカ文学会東京支部
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hiromi Ochi
2. 発表標題 Little Magazines and Creative Writing as Engines of Cold War Cultural Diplomacy
3. 学会等名 American Studies Association (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hiromi Ochi
2. 発表標題 Creative Writing and Little Magazines
3. 学会等名 Online Forum on the Cultural Cold War: Roundtable on the Politics of Creative Writing and American Studies in the Cold War (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yukari Yoshihara
2. 発表標題 Rockefeller Aided Creative Writing Programs, American Hegemony and Resistance: The Case of N.V.M. Gonzalez
3. 学会等名 American Studies Association (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Michael Larson
2. 発表標題 Reading Kenji Miyazawa after 3.11: Region, Utopia, and Modernity,
3. 学会等名 The 11th Asian Conference on Cultural Studies, IAFOR (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Michael Larson
2. 発表標題 アーシュラ・K・ル・グインの『所有せざる人々』における仕事について
3. 学会等名 日本英文学会関東支部第20回大会（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 千葉洋平
2. 発表標題 生態学から分子生物学へ：Annihilation(2014, 2018)における生物学者の詩学，
3. 学会等名 第73回日本英文学会中部支部大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 千葉洋平
2. 発表標題 誤って読む / 誤りを読む - - 第二次世界大戦期におけるI. A. Richards とKenneth Burkeの文学教育
3. 学会等名 第60回日本アメリカ文学会全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yohei Chiba
2. 発表標題 Purifying the Aesthetic: I. A. Richards and Kenneth Burke on Interpretation of Errors in Teaching
3. 学会等名 Kenneth Burke Society 11th Triennial Conference（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 吉田恭子
2. 発表標題 翻訳するアメリカ文学
3. 学会等名 アメリカ文学会東京支部シンポジウム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 千葉洋平
2. 発表標題 裏切りもの（セルアウト）：ポスト人種時代における人種ジョーク
3. 学会等名 日本アメリカ文学会中部支部
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kyoko Yoshida
2. 発表標題 Author's Panel
3. 学会等名 British Centre for Literary Translation Summer School
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kyoko Yoshida
2. 発表標題 Creative Writing Workshop for Translators
3. 学会等名 British Centre for Literary Translation Summer School
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kyoko Yoshida
2. 発表標題 How Japanese Literature Crosses Borders
3. 学会等名 Online Summer Programme in Japanese Cultural Studies
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 吉田恭子
2. 発表標題 文学的クリエイションの場としての大学
3. 学会等名 立命館大学
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 吉田恭子
2. 発表標題 文学レジデンス入門ワークショップ
3. 学会等名 立命館大学
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hiromi Ochi
2. 発表標題 “Translations of American Cultural Politics into the Context of Post War Japan”
3. 学会等名 慶應義塾大学アメリカ学会主催第一回国際シンポジウム「環太平洋、環大西洋、環文学史-脱アメリカ的アメリカ研究の到来」（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kyoko Yoshida
2. 発表標題 Writing and Translating in the Age of Post-National Literature
3. 学会等名 Translation Workshop (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉田恭子
2. 発表標題 2017年ジャイプル文学祭に参加して
3. 学会等名 第1回現代インド英語文学研究会 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kyoko Yoshida
2. 発表標題 Japanese Literature and Translation after Murakami: A Roundtable Discussion
3. 学会等名 オックスフォード大学ペンブローク・カレッジ (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kyoko Yoshida
2. 発表標題 Experimental Re:Retranslation
3. 学会等名 アメリカ文芸翻訳者協会 (ALTA) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kyoko Yoshida
2. 発表標題 Discussion Group: Kyoko Yoshida discusses the translation and re-translation of Yoshimasu Gozo 's Alice Iris Red Horse (New Directions, 2016)
3. 学会等名 Oxford Comparative Criticism and Translation (OCCT) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kyoko Yoshida
2. 発表標題 Creative Writing in the Era of Post-National Literatures
3. 学会等名 国際シンポジウム「近代文学の終わり」(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 千葉洋平
2. 発表標題 "Louise ErdrichのThe Round House (2012) におけるグローバル経済の中の法の主体"
3. 学会等名 筑波アメリカ文学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Michael Larson
2. 発表標題 英語アカデミック・ライティングワークショップ
3. 学会等名 筑波大学人文社会学系研究支援プロジェクト(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Michael Larson
2. 発表標題 When the Waves Came
3. 学会等名 Niseko Green Keynote Talk (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 吉原ゆかり
2. 発表標題 Paul Stegner, Creative Writing at Stanford and Cultural Cold War.
3. 学会等名 「1945年を跨境して-アジアにおける英米文学教育のジオポリティックス」第三回研究集会 (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計21件

1. 著者名 有光道生	4. 発行年 2023年
2. 出版社 南雲堂	5. 総ページ数 530
3. 書名 キャメロットを越えて ジョン・F・ケネディと冷戦期アメリカ文学	

1. 著者名 Michael Larson	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Asahi Press	5. 総ページ数 154
3. 書名 Notes on Brotherhood: English Literature in the Classroom, Vol. 1.	

1. 著者名 越智博美	4. 発行年 2022年
2. 出版社 松籟社	5. 総ページ数 240
3. 書名 ウィリアム・フォークナーの日本訪問; 冷戦と文学のポリティクス	

1. 著者名 Yukari Yoshihara	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Bloomsbury	5. 総ページ数 416
3. 書名 The Arden Research Handbook of Shakespeare and Adaptation	

1. 著者名 Yukari Yoshihara	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 340
3. 書名 Asian English: Histories, Texts, Institutions	

1. 著者名 Michio Arimitsu	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Peter Lang	5. 総ページ数 316
3. 書名 Global Ralph Ellison: Aesthetics and Politics Beyond US Borders.	

1. 著者名 有光 道生	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 612
3. 書名 『ハーレム・ルネサンス - ニュー・ニグロ の文化社会批評 - 』	

1. 著者名 Yukari Yoshihara	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 249
3. 書名 Asian Interventions in Global Shakespeare	

1. 著者名 Yukari Yoshihara	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 306
3. 書名 Robinson Crusoe in Asia	

1. 著者名 Yukari Yoshihara	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 325
3. 書名 Asian English	

1. 著者名 Hiromi Ochi	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 325
3. 書名 Asian English	

1. 著者名 吉田恭子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 水声文庫	5. 総ページ数 314
3. 書名 ジョージ・オーウェル『一九八四年』を読むーディストピアからポスト・トゥルースまで	

1. 著者名 Yukari Yoshihara	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 264
3. 書名 Asian Interventions in Global Shakespeare	

1. 著者名 Yukari Yoshihara	4. 発行年 2020年
2. 出版社 INSEA Publications	5. 総ページ数 230
3. 書名 Manga!: Visual Pop-Culture in ARTS Education	

1. 著者名 Yukari Yoshihara	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Manchester University Press	5. 総ページ数 288
3. 書名 Shakespeare and the Supernatural	

1. 著者名 吉田恭子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 書肆侃侃房	5. 総ページ数 376
3. 書名 現代アメリカ文学ポップコーン大盛	

1. 著者名 Hiromi Ochi	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 380
3. 書名 Routledge Companion to Transnational American Studies	

1. 著者名 有光道生	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 244
3. 書名 よくわかるアメリカ文化史	

1. 著者名 吉田恭子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 松籟社	5. 総ページ数 339
3. 書名 精読という迷宮 - - アメリカ文学のメタリーディング	

1. 著者名 MW Larson	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Chin Music Press	5. 総ページ数 193
3. 書名 When the Waves Came	

1. 著者名 Yukari Yoshihara	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Manchester University Press	5. 総ページ数 304
3. 書名 Shakespeare and the Supernatural	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	有光 道生 (Arimitsu Michio) (30715024)	慶應義塾大学・法学部(日吉)・教授 (32612)	
研究分担者	千葉 洋平 (Chiba Yohei) (30802821)	中京大学・国際学部・准教授 (33908)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	越智 博美 (Ochi Hiromi) (90251727)	専修大学・国際コミュニケーション学部・教授 (32634)	
研究分担者	吉田 恭子 (Yoshida Kyoko) (90338244)	立命館大学・文学部・教授 (34315)	
研究分担者	Larson Michael・William (Larson Michael) (10840184)	慶應義塾大学・法学部（日吉）・専任講師 (32612)	
研究分担者	西田 桐子 (Nishida Kiriko) (10961344)	和光大学・表現学部・講師 (32688)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計5件

国際研究集会 Creative Writing and the Cold War	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 冷戦期東アジア文化政策と映像メディア研究集会	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 Online Forum on the Cultural Cold War	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 女性ライブラリアンの歴史に光を当てる－課題と展望	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 モダニズムの水平線 世界文学シンポジウム	開催年 2023年～2023年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------